



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

2017.11.29 (No.2939)
週報 No. 21

クラブと地区の変革をめざそう

第2560地区ガバナー／新保清久
会長 長／小出子恵出
会長エレクト／松永一義 (クラブ奉仕A)
会長ノミニ／若槻八十彦 (クラブ奉仕B)
副会長／五十嵐晋三
幹事／吉井直樹
S A A／歸山肇
会計／関川博

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(～はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

- 本日の出席会員数:60名中42名
- 先々週出席率:84.21%

【ヴィジター】

・三條北RC 中條耕二さん

【先週のメークアップ】

- [11.22～23] ローターリー研究会(東京)へ
・川瀬康裕さん
- [11.22] 柏崎RCへ
・吉井直樹さん
- [11.25] 米山奨学生学友会総会(新潟)へ
・明田川賢一さん、若槻八十彦さん
- [11.27] 柏崎東RCへ
・吉井直樹さん
- [11.27] 新潟万代RCへ
・渡辺良一さん
- [11.27] 三條南RCへ
・小林敏信さん、加藤紋次郎さん、
・木村文夫さん、菊池 渉さん、
・佐野勝榮さん、小林卓哉さん、
・中村和彦さん、斎藤弘文さん、
・相場弘介さん (9名)



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度国際ロータリーのテーマ



会長挨拶

小出子恵出 会長



みなさんこんにちは。

先週は除雪車が出動しました。嫌な季節になりました。

あいさつの話題に窮し、2011年の今頃は何をしていたただらうと週報をめぐってみました。また、山田会員に登場していただきます。山田会員が会長で、

そして私が幹事を担った年です。

23日の勤労感謝の日から3泊4日間の日程で、13名で新竹城中ロータリークラブとの姉妹クラブ締結更新のため出発しています。新潟空港を11時に出て14時30分(現地時刻13:30)台北着の便でした。当日の午後6時から歓迎会が催され新竹城中RCの皆さんから熱烈歓迎を受けました。歓迎会に先立ち姉妹クラブ締結のセレモニーがあり、各々の会長が契約書にサインする場面を思い出しています。

24日の夕方には可憐県のホテルに。25日は太魯閣渓谷を散策。浸食によってできた大理石の奇岩の連続で溪流に沿って20kmもあると言うところを思い出しています。

その年は7.29新潟・福島豪雨災害が発生した年でした。私は、三條市の道路と河川の災害復旧測量設計の市外からの応援測量業者を災害ヶ所ごとに割り振り現場案内を担当して

いました。普段はあまり測量の現場には出ないのですが、気合を入れて取り組まなければならない災害箇所の設計を1ヶ所担当していました。災害復旧工事の復旧工法は適正か、過大設計になっていないかを国交省と財務省がチェックする「査定」が、8月の後半から概ね10日毎にありました。台湾に行っている最中に最後の査定が始まりました。日本から電話が2度3度とありましたが手元に図面がないので対応ができません。FAXで図面を貰おうとしたのですがなかなか届きませんでした。忙しい旅行だったことを思い出しています。

来年の3月には、新竹城中RCの創立記念日に合わせて訪問したいと友好クラブ委員会の柳取会員を中心に原案を作ってもらっています。理事会で検討したのち皆さんにご提示をさせていただきます。その時は大勢の方からご参加を頂きたいと願っております。

幹事報告

吉井直樹 幹事

◎新保ガバナー事務所より

「12月ロータリーレートのご案内」

12月1日より 1ドル=112円 (現行114円)

◎三条ローターアクトクラブより

「12月第二例会のご案内」

日 時 12月21日(木) 19:30~

会 場 リサーチコア 4階・異業種交流室

※ローターアクトクラブの例会参加はメイクアップ扱いになります。ふるってご参加ください。

◎三条南RCより

「創立50周年記念式典のご案内」

日 時 2017年6月16日(土)

式典 午後2時より

会 場 ジオ・ワールド ビップ

※正式なご案内は来年3月頃に届きます。

◎次週 12月6日(水)の例会は「年次総会」です。

ニコニコBOX

パストガバナー 中條耕二様(三条北RC)

日頃お世話になっている若槻さんの卓話を拝聴に参りました。

小出子恵出会長

除雪車の出動の時期になりました。

インフルエンザワクチンが不足しているとのことです。カゼを引かないように御留意を。

若槻八十彦さん

本日はロータリー財団の卓話をさせていただきます。財団BOXの方もよろしくお願ひいたします。

吉井直樹さん

カレンダーもあと1枚。なんとか年を越せそうです。

本日若槻さん、財団PR宜しくお願ひします。

衛藤泰男さん

佐渡からお客さんが来条したので、越前屋ホテルさんを紹介しました。朝食が大変美味しかったと感激して帰って行かれました。

荻根澤隆雄さん

今日はイイニク(1129)の日?少しでも良いので良質の肉^(肉)を食べてみたい。

若槻会員、ご苦労様です。

樺山 仁さん

11月も終わりに近づき1年が早く廻って来ます。

本日は財団の若槻会員の卓話です。御苦労様です。よろしくお願ひします。

関川 博さん

久々に石黒会員の元気な顔を見てうれしくなりました。

本日は若槻会員、卓話楽しみです。

熊倉昌平さん

若槻さんの益々の活躍を期待しております。今日は卓話ありがとうございます。

野崎喜一郎さん

良い事がありました。

小林吾郎さん

寒くなりました。体に気をつけて!

山田富義さん

若槻会員、卓話ありがとうございます。

所用のため早退します。

佐野勝榮さん、川瀬康裕さん、明田川賢一さん、

杉山幸英さん、斎藤真澄さん、渡辺勝利さん、

五十嵐晋三さん、西山徳芳さん、小越憲泰さん、

伊藤寛一さん、金子俊郎さん、高橋 司さん、

米山智哉さん、丸山行彦さん、中村信一さん、

船越良則さん、渡辺良一さん、松永一義さん、

柳取崇之さん、中條克俊さん、五十嵐博宣さん、

歸山 肇さん、石橋育於さん、石黒良行さん

若槻八十彦ロータリー財団委員長、本日は、財団月間卓話ありがとうございます。

11月29日分 ￥ 39,000

今年度累計 ￥ 588,000

「卓 話」

「ロータリー財団月間」



ロータリー財団委員長

若槻 八十彦 会員

皆さま、こんにちは。11月は「ロータリー財団月間」ということで、財団委員長として卓話をさせていただくことになりました。

ロータリー財団委員長は、おとしの五十嵐晋三会長の時以来、2度目となるのではありますが、ロータリー財団とその事業を、どれだけ深く理解をしているかといいますと、私自身はなほだ心もとなく、冷や汗の出る思いで今ここに立っております。ベテランの諸先輩方には「何をいまさら」と言われそうではありますが、自分なりの浅い知識で、基本的な部分をお話しして、入会間もない若い会員の皆さんに、ロータリー財団とその事業について、ひとつでもふたつでも、理解をしていただけたらと思っております。

10月の地区大会におきまして、皆さまご承知の通り、当三条クラブが、ガバナー賞ロータリー財団寄付クラブ表彰を受賞いたしました。会員1人当たりの年次寄付額が、2560地区で1番多かったということで賞をいただいたわけですが、これは、特に渋谷健一会員が、前年度においてロータリー財団へ大口の寄付をされたことがその大きな要因でございます。そして、渋谷会員にはガバナー賞ロータリー財団寄付個人表彰が贈られております。クラブ財団委員長として、渋谷会員に心より感謝を申し上げます。

今年の6月、米国ジョージア州アトランタでRI国際大会が開かれました。当クラブから、川瀬ガバナーエレクト、関川会員、小林吾郎会員が参加されましたが、今を遡ることちょうど100年前の1917年、場所も同じくアトランタで開かれたロータリー国際大会で、国際ロータリー会長アーチ・クランプが「世界でよいことをするための基金の設立」を提案しました。そして、26ドル50セントの寄付からロータリー財団は始まりました。

それ以来ロータリー財団は、集められた浄財で、ロータリアンによる様々な奉仕活動を支え、財団の奨学金制度を通じて若者を支援し、ポリオ撲滅を実現に近づけてきました。きれいな水と衛生設備の提供、疾病の予防と治療、平和と紛争解決、基本的教育の推進、経済と地域社会の発展は、いずれもロー

タリーが力を注いでいる分野です。これらの分野とポリオ撲滅において、ロータリー財団はたいへん重要な役割を果たしてきました。

26ドル50セントの寄付でスタートした財団は、今日世界有数の財団に成長し、何百万人という人たちのために人道的支援を行ってきました。その後この財団は、1928年のミネソタ州ミネアポリスでの国際大会において、「ロータリー財団」と正式に命名されます。

1930年、国際障害児協会 (Easter Sealsの前身) へ500ドルを送り、これが財団の補助金第一号となりました。

1947年 ロータリー財団初のプログラムとして「高等教育のためのロータリー財団奨学金」を開始します。留学生への支援を通じて国際理解を推進する奨学金プログラムでした (さまざまな名称で呼ばれ、「国際親善奨学金」はその一つ)。1951-52年度国際親善奨学生の一に、日本人の緒方貞子さんがいらっしゃいます。緒方さんは、東京ロータリークラブの支援を受け、日本から米国ワシントンDCに留学して、後に国際難民高等弁務官として世界中で活躍されました。

1947年、ロータリーの創設者ポール・ハリスが逝去の後、「追悼は献花ではなく、財団への寄付を」というハリスの遺志が電報でロータリアンに伝えられました。すると亡くなってから18か月の間に、ロータリアンから100万ドル以上の寄付が財団に寄せられたということです。

ポール・ハリス没後10年に当たる1957年、ポール・ハリス・フェロー認証プログラムが創設され、1,000ドル以上を寄付した人に「ポール・ハリス・フェロー」の称号が授与されるようになりました。そしてその数は50年後の2006年には100万人に達しています。

1963-64年度RI会長のカール・ミラーの発案によって、異なる国のクラブと地区を組み合わせる国際理解を推進するプログラムが開始されました。後にミラー夫妻が国際奉仕プロジェクトの支援を目的に100万ドルを支出して、後に「マッチング・グラント」と「グローバル補助金」というプログラムとして発展しました。また「マッチング・グラント」と共に「研究グループ交換 (GSE)」もこの時に始まりました。

1978年、大規模な人道的取り組みを可能とする「保健、飢餓追放および人間性尊重 (3-H) 補助金プログラム」が創設されます。この3-Hプログラムは、保健、飢餓の緩和、人道的活動や開発を改善するこ

とを目的としています。きれいな水の提供、識字率向上、医療の支援など、多様なプロジェクトに利用されたこの補助金は、今日の「グローバル補助金」の土台を築きました。

この翌年の1979年、国際ロータリーはフィリピンで600万人の児童へのポリオ予防接種活動を開始します。1979年9月29日、国際ロータリーとフィリピン保健省の間で、ポリオ予防接種に関する合意が交わされました。この取り組みが、地球上からポリオを撲滅するというロータリーの壮大な目標のきっかけになります。

1981年、ロータリー財団は、特定の寄付を投資し、元金には手をつけずにその収益のみを財団の活動に活用することを目的とした基金、「世界理解と平和のための基金」、後の「恒久基金」を創設します。

1985年、ポリオプラス・プログラムを創設します。ポリオプラスの「プラス」とは何か？当初、「プラス」はポリオワクチンとともに投与されていたほかのワクチンを指していました。現在は、ポリオ撲滅の取り組みにより築かれたノウハウを、他の疾病対策に生かしていくことも意味しています。

1988年、ポリオ予防接種活動でのロータリーの成果がきっかけとなり、世界保健総会が世界ポリオ撲滅推進活動（GPEI）を創設します。当初、このGPEIはロータリー、世界保健機関（WHO）、米国疾病対策センター（CDC）、ユニセフで構成され、これらの団体が協力してポリオ撲滅活動に当たっていました。その後、ビル&メリンダ・ゲイツ財団を含む他の団体や各国政府が加わっていきます。

1999年、ロータリー平和センターの設立。ロータリー平和センターとは、平和と紛争予防・紛争解決の分野で活躍できるリーダーを育成することを目的としたプログラムで、毎年、100名までのロータリー平和フェローが選ばれ、6つのセンターにおける修士号取得プログラムか専門能力修了証取得プログラムのいずれかで学びます。第1期フェローは、2002年秋に学業を開始しました。

2004年、「EREY」を開始。EREYとは、「Every Rotarian, Every year」の略で、全ロータリアンが毎年財団に寄付することを奨励する取り組みです。当初は年次基金への一人あたりの寄付額を年100ドル以上とすることが目標でしたが、開始から10年後、年次基金への一人あたりの寄付額は116ドルとなりました。

2007年、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が1億ドルのチャレンジ補助金をロータリーに授与することを

発表します。これは、ポリオ撲滅のためにロータリーによって集められた資金と同額をゲイツ財団が補助金として拠出するというものでした。

そして2009年1月、ゲイツ財団は、ロータリーからポリオ撲滅に2億ドルを寄付することを条件に、ロータリーに3億5500万ドルの補助金を提供することを発表。その結果、世界ポリオ撲滅推進活動に合計5億5500万ドルが寄付されることとなりました。そして2011年には、ポリオ撲滅へのロータリーの寄付総額がついに10億ドルを超えるまでになりました。

2014年、インドで3年間、野生型ポリオウイルスによる新規症例が確認されなかったため、世界保健機関（WHO）が東南アジア地域のポリオ撲滅を認定しました。ポリオの発症例は1988年以来、99%の減少にまでこぎ着けました。

10月25日現在、ポリオの常在国は3カ国（アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリア）、今年の発症件数は12件となりました。ただし今、手をゆるめることなく、世界からポリオを完全に撲滅しない限り、今後10年以内に、世界での年間発症数は20万件に上ると予想されています。ポリオの発症がどこかで起きている限り、感染の危険は世界中の子ども達に及ぶこととなります。

今年、2017年アトランタ国際大会で、ロータリーとゲイツ財団は、ポリオ根絶のために、3年間で最高4億5000万ドルの寄付という共同の誓約をかわしました。「ロータリーから刺激を受け、私もポリオ撲滅に深くかかわろうと決意しました。ロータリーがなければ、今日の世界はなかったでしょうし、今後世界が向かうべき方向も失われていたでしょう」と、ビル・ゲイツは語っています。

より多くの大きな成果を生み出すプロジェクトやプログラムはすべて、ロータリー会員の惜しみないご支援により実現されます。ロータリーが日々、世界中で人びとを助けることができるのも、皆さまからの寄付のおかげです。絶望的な状況に置かれている難民、難産で苦しんでいる若い母親、ポリオ感染のリスクに脅かされている子ども達など、助けを必要とする多くの人びとを救っているのは、ほかでもないロータリー会員の皆さんです。温かいご支援に心より感謝いたします。

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが世界の人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることにあります。

以上、ロータリー財団の100年に及ぶ奉仕活動と

その成果について、一部分ではありますがお話しさせていただきました。

ご清聴ありがとうございました。

なお、先般の例会におきまして、10月28日地区大会第1日目の報告をさせていただき、ロータリー財団理事の江崎氏の講演についてお話しさせていただ

きました。時間の都合で話が途中まででしたが、残りのお話は本日の内容と同じですので、割愛させていただきます。

最後に、ロータリー財団のビデオを5分ほど見ていただき、本日の卓話を終了いたします。ありがとうございました。



クリスマス例会ご出席の皆様へお願い



20日(水)は、夜例会「ファミリークリスマスパーティー」です。

当日はプレゼント交換を行いますので、**会員** および **ご同伴** の皆様は各自 **1,000円程度** のプレゼントをお一つずつご用意ください。

～ お子様のプレゼントは、
親睦委員会で用意致します。～



12月のお祝い

◎会員誕生祝

- 6日 梨本次郎さん
- 9日 相場弘介さん
- 19日 牧 利幸さん



◎夫人誕生祝

- 1日 若槻由美子さん (八十彦さん)
- 5日 中村玲子さん (信一さん)
- 17日 柳取 恵さん (崇之さん)
- 18日 荻根澤愛子さん (隆雄さん)
- 18日 菊池まゆみさん (渉さん)
- 20日 小林 幸さん (吾郎さん)

◎結婚記念祝

- 9日 杉山幸英さん (敏子さん)

◎100%出席賞

- 11年 若槻八十彦さん
- 6年 関川 博さん
- 6年 吉井直樹さん

次週例会 12月13日 「外部卓話」
三条税務署 署長 廣瀬 隆 様

次々週例会 12月20日 夜例会
「ファミリークリスマスパーティー」
18:30～ 於 ジオ・ワールド ビップ

